

～約1万年前の縄文ワールド 第7弾～

船橋市初の
国史跡!

取掛西貝塚を考える

～石器からみた1万年前の暮らし～

講演① ^{れきせつき} 礫石器が語る縄文時代の暮らし 取掛西貝塚出土資料を中心に

弘前大学 人文社会科学部 教授

^{かみじょう のぶひこ} 上條 信彦 氏

講演② ^{こうひょうき} 後氷期を切り拓く斧と縄文集落の展開

公立小松大学 次世代考古学研究センター 特任准教授 ^{のぐち あつし} 野口 淳 氏

～上條さんからのメッセージ～

縄文時代という土器が真っ先に思い浮かびますが、実は縄文らしさを語る隠れた遺物は、^{れきせつき} 礫石器なのです。土偶などと比べると一見地味で沢山出土するので注目を浴びていないですが、それだけ縄文人にとってとても身近な道具だったともいえるでしょう。この石器が、縄文生活の維持に欠かせない道具だったということが、近年の顕微鏡観察や付着物分析から分かってきました。取掛西貝塚の定住生活の秘訣が分かるかもしれません。

～野口さんからのメッセージ～

日本列島における定住化は氷河期の終わりに先立ち、1万4千年前頃には始まっていました。しかし、一定の規模で広場などを持つ定型的な集落が発展するのは、縄文時代早期がひとつの画期です。その背景として、気候・環境の変化、それに伴う生業・社会の変化がありました。本講演では、そうした変化を実現化した新しい技術としての石器づくりに着目します。焦点の一つが「斧」です。日本列島における先史時代の「斧」は、後期旧石器時代の初頭に遡ることができ、縄文時代草創期から早期以降へと連続するものです。しかし、縄文時代早期～前期にかけて機械的性能が大きく変化し、大規模な伐採を効率的に行なえるようになりました。その端緒と言える「^{れきふ}礫斧」を軸として、取掛西貝塚における縄文時代早期の石器とその技術体系について、日本列島における人類史上の意義から解説します。

講演会の
難易度



①船橋市スマート申請 または ②往復はがき で お申込ください!

申込：2月1日(土)9:00～14日(金)

【記入例】※往信用の宛名欄は、住所不要です。

85 円	2738901	何も記入しないでください	返信裏
往信	船橋市教育委員会 文化課行	白紙	

85 円	代表者の郵便番号	代表者の住所	往信裏
往信	代表者のお名前様	代表者のお名前 ②代表者の住所 ③代表者の電話番号 ④参加希望人数 (一度に2名まで可能)	

日時：令和7年3月8日(土)

13:30～16:30 (13:00 開場)

会場：船橋市民文化創造館 (きららホール)
住所：船橋市本町 1-3-1 フェイスビル 6階
定員：210名 (事前申込・多数は抽選)
当選結果に関わらず、2月28日(金)までにご連絡を申し上げます。

費用：参加費無料
お問合せ：船橋市教育委員会 文化課 文化財保護係
(TEL ☎：047-436-2887)



公共交通機関でお越しください。

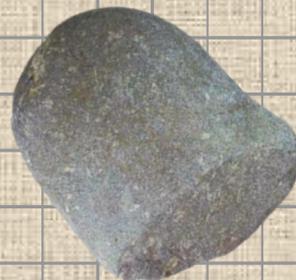


取掛西貝塚上空から東京湾をのぞむ



船橋市初の国史跡 取掛西貝塚

ドキ
土器ッ♥
セッキ
石器ン!
取掛西貝塚



れき
礫斧



れき
礫斧



石皿・すり石



お問い合わせ：船橋市教育委員会 文化課 文化財保護係 TEL：047-436-2887

もっと知りたい方は、右の二次元コードから、「市HP 取掛西貝塚 特設ページ」をチェック！

